

道の駅の建設に向けて

平成 31 年春のオープンをめざす道の駅について、『広報あびら』6 月号および 7 月号では、完成予想図や平面図を掲載し、道の駅に置かれる機能や開設されるコーナー等について概要を紹介しました。町の情報や食の魅力、文化・歴史を発信するステーションとして期待される道の駅。では、道の駅はどのような目的で整備されるのでしょうか？

1. 道の駅の整備目的

安平町をとりまく現状と課題

交流人口の拡大を目指す安平町。

菜の花など新たな観光資源も増える中、恵まれた立地条件を活かし、地域資源と情報を集結するための拠点整備が求められます。

なぜ交流人口を増やす必要があるの？

今後進みゆく人口減少や少子高齢化への打開策として、次の 2 点から交流人口の拡大が必要であると考えています。

- (1) 経済が縮小する中、町の観光資源を活用して外から人を呼び込み、消費を促し、その効果を町内に循環させて地域活性化を図るため。
- (2) 合併以降、町の知名度の向上という課題を抱えているため、知ってもらい、足を運んでもらい、最終的に定住へ結びつけていく戦略が重要であるため。

マイナス要因（主なもの）	プラス要因（主なもの）
人口減少と少子高齢化による地域経済の衰退	札幌都市圏（約 234.9 万人）に至近
知名度が低く未訪問層が多い	アクセス面（高速道、空港、港湾）で高い優位性
多様な地域資源が分散	北海道らしい景観と多様な文化・農産品・特産品
特産品の販売拠点が少ない	消費者の食の安全・安心への関心度の高まり



整備目的：次の 3 つを目的として道の駅を整備し、「地域活性化」につなげます

- ①分散する地域資源（人・もの・文化等）を集結し、町の価値を高める
- ②都市と農村との往来やつながりを促し、交流人口を拡大する
- ③町の知名度を向上させる⇒「地域活性化につなげる」

このような要因から、町では交流人口拡大に向けた戦略である「回遊・交流ステーション形成事業」を展開し、その拠点の 1 つとして道の駅建設を行います。

2. 「回遊・交流戦略検討会」が開催されています

今年 6 月に設置した「回遊・交流戦略検討会」（商工会・観光協会・一般町民で構成）では、交流人口の拡大策や、町内での回遊性を高めるための具体策、そして道の駅の運営について協議が行われています。

8 月 23 日に開催された第 2 回目の検討会では、町内への集客や回遊のための具体案について意見交換するとともに、株式会社道銀地域総合研究所より講師をお招きし、道の駅の運営のポイントについての講話を聞きました。

